

令和2年度 学校評価 教員自己評価アンケート集計結果

評価平均 2.8 以下 (概ね 1/4 が「2 以下」と評価した項目) ※ 重点項目として学部等で検討

I 児童生徒や教員自身に関する評価項目 (保護者と共通項目) ※ パーセントについては、小数点以下第1位を四捨五入しており、合計が100%になっていない項目があります。

評価項目	4		3		2		1		評価平均	改善策等 (自己評価後、学部等で検討)
	大変良い	良い	良い	良い	不十分	不十分	かなり不十分	かなり不十分		
1 児童生徒は、自分から学習や活動に取り組むように育っていますか。	1	4%	24	86%	3	11%	0	0%	2.9	<p>「3 児童生徒は、自分から仕事やお手伝いをするように育っていますか。」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の準備などにおいて、教師が誘いかけることで、自分から手伝いをしようとする意欲や自発性を大切にしていきたい。 ・一緒に行った活動の準備に対して感謝されるような経験を通して、やってよかったという本人の実感を大切にしていきたい。 ・保護者との連携を大切にしていきたい。具体的な案として、進路に関する学年だよりの発行や長期休業中の生活表に「どのようなことができるようになりましたか」などの枠を設け、保護者に記載いただくことが考えられる。 ・学級では、生徒同士が声を掛け合って自主的に仕事(係)に取り組むようになってきている。家庭での般化につなげていきたい。 ・学校でできるようになってきたことについて、家庭に伝えて同じような活動場面を設けてもらう(食事・掃除など)。 ・意図的に自分から仕事する場面を設定していく。学部内で内発的動機を持つための支援を考えていく。 <p>「4 教員は、児童生徒への言葉掛け、接し方が適切ですか。」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権、年齢等をふまえた言葉づかいが求められる中、親しみからというっかり「ちゃん」付けで呼んだり、話し方を気を付けなければならないときがある。「さん」付け等を改めるように意識していく。 ・高等部卒業後、社会に出たときに困らないように言葉の適切な使い方について指導していく。 ・社会人の姿を意識することで、丁寧なかかわりにつなげようとしている。 ・生徒の実態に応じて、教員が生徒と同じ目線で話すようにしていく。
2 児童生徒は、人とかかわりを受け入れたり、人とかかわろうとしたりしますか。	2	7%	25	89%	1	4%	0	0%	3.0	
3 児童生徒は、自分から仕事やお手伝いをするように育っていますか。	1	4%	19	68%	8	29%	0	0%	2.8	
4 教員は、児童生徒への言葉掛け、接し方が適切ですか。	0	0%	18	64%	10	36%	0	0%	2.6	
5 教員は、児童生徒一人一人に応じた指導・支援を行いましたか。	3	11%	19	68%	6	21%	0	0%	2.9	
6 教員は、児童生徒にとって分かりやすく学びやすい学級づくりに取り組みましたか。	4	14%	21	75%	3	11%	0	0%	3.0	
7 教員は、児童生徒の生活習慣や健康管理についての相談に丁寧に対応しましたか。	3	11%	23	82%	2	7%	0	0%	3.0	
8 教員は、学習状況についての情報提供を十分に行いましたか。	2	7%	24	86%	2	7%	0	0%	3.0	
9 教員は、卒業後の生活に向けての学習、情報提供を十分に行いましたか。	1	4%	24	86%	3	11%	0	0%	2.9	
10 笑顔あふれる元気な学校になっていますか。	1	4%	27	96%	0	0%	0	0%	3.0	
11 明るく安全な学校になっていますか。	4	14%	22	79%	2	7%	0	0%	3.1	
12 明るく信頼できる教師集団だと思いますか。	4	14%	23	82%	1	4%	0	0%	3.1	

II 経営の方針・重点（教員のみ）の項目

評価項目	4		3		2		1		評価平均	改善策等（自己評価後、学部等で検討）
	大変良い	良い	良い	良い	不十分	不十分	かなり不十分	かなり不十分		
1 大学・校長等の経営方針に基づき、教育課程全体を通して、子どもに生きる力を育むことができましたか。										「2(1)個別の指導計画等の活用と確実な引継ぎによる一人一人の実態に応じた適切な指導ができましたか。」について ・学校研究で取り組んでいるCAミーティング（評価→改善）の反省を生かしていく。 ・上位学部との引継ぎは、年度末休業期間に個別の指導計画をもとに一人一人の引継ぎを行っている。ただ、限られた時間内で紙面による引継ぎであるため、引継ぎの情報が限定的になりがちである。授業場面など、実際の様子を複数の目で見合えるような工夫をしていく必要がある。 ・取り扱った内容についての見える化につながるよう工夫していく。 ・年間単元題材一覧を活用し、教科等の学びの履歴がまとめられるようになることよい。 ・実態表の書き方が学部によって違いがあるので、統一するようにする。
(1)カリキュラム・マネジメントを踏まえた教育課程の編成に努めましたか。	2	7%	22	79%	4	14%	0	0%	2.9	
(2)教職員の協働に基づく学校経営・教育実践の推進ができましたか。	2	7%	24	86%	2	7%	0	0%	3.0	
(3)安全・安心な教育環境の下で教育活動を実施することができましたか。（いじめ撲滅、体罰の禁止、危機管理への対応）	5	18%	20	71%	3	11%	0	0%	3.1	
2 12年間をつなぐ、切れ目ない一貫教育の推進（指導内容・方法の継続性の重視）を図ることができましたか。										「2(2)もてる力を引き出し、社会的自立を目指したキャリア教育の推進ができましたか。」について 「3(3)OJTの推進と大学教員との積極的な連携を図ることができましたか。」について ・大学教員とのグループ研究の参加の仕方など、工夫していく。 ・特別支援教育を専門とする大学教員と関わる機会を増やし、専門性を高めていきたい（グループ研究を活用して）。 ・本校でのOJTとは何かを改めて確認していく。 ・特別支援教育以外の大学教員とも連携していく（SDGs、ICTなど）。 ・GIGAスクール用タブレット端末（小中に整備）を高等部でも活用していく。
(1)個別の指導計画等の活用と確実な引継ぎによる一人一人の実態に応じた適切な指導ができましたか。	1	4%	16	57%	11	39%	0	0%	2.6	
(2)もてる力を引き出し、社会的自立を目指したキャリア教育の推進ができましたか。	1	4%	19	68%	8	29%	0	0%	2.8	
(3)新学習指導要領を踏まえた学習指導の改善を行いましたか。	4	14%	22	79%	2	7%	0	0%	3.1	
3 教員の専門性（実践的指導力、教育研究）の向上とセンター的機能の発揮を図ることができましたか。										「5(2)業務改善（意識改革と業務量削減）の推進と担任・分掌部業務のさらなる見直しを行うことができましたか。」について ・丁寧に個別対応することを見据えた業務の時間の配当を検討していく必要がある。 ・会計処理等、事務作業の更なる簡略化、縮小化が必要である。 ・大変なお互いにお互いに声を掛け合うなどの同僚性を意識していく。 ・今後の附属学校のあり方において大学との連携が強く示されている中、新たな業務も生じている。そのうえで、今の業務分担で対応可能か、再検討の段階に入っている。
(1)確かな児童生徒理解に基づく学級・学部運営ができましたか。	2	7%	23	82%	3	11%	0	0%	3.0	
(2)学校研究の充実と外部への提供・発信を行うことができましたか。	2	7%	21	75%	5	18%	0	0%	2.9	
(3)OJTの推進と大学教員との積極的な連携を図ることができましたか。	1	4%	15	54%	12	43%	0	0%	2.6	
4 家庭、地域、大学、四附属学校園、関係機関との連携の充実を図ることができましたか。										
(1)信頼関係に基づく連携と活動の充実を図ることができましたか。（PTA、放課後等デイサービス、就労関係機関等）	4	14%	21	75%	3	11%	0	0%	3.0	
(2)教育実習、介護等体験等へ適切に対応することができましたか。（今年度は介護等体験の受け入れはなし）	6	21%	20	71%	2	7%	0	0%	3.1	
(3)「交流及び共同学習」の充実、かかわりや絆を広げる、深める活動の継続を行うことができましたか。	4	14%	17	61%	7	25%	0	0%	2.9	
(4)学校公開やHPの活用などの情報の発信に寄与することができましたか。	2	7%	23	82%	3	11%	0	0%	3.0	
5 附属学校の教育課題への対応と働き方改革への一層の取組みを図ることができましたか。										
(1)附属学校のあり方や役割について課題意識を持って学校経営に参画することができましたか。	1	4%	26	93%	1	4%	0	0%	3.0	
(2)業務改善（意識改革と業務量削減）の推進と担任・分掌部業務のさらなる見直しを行うことができましたか。	1	4%	15	54%	12	43%	0	0%	2.6	

Ⅲ 基本姿勢とマネジメント（教員のみ項目）

	評価項目	4		3		2		1		評価平均	改善策等（自己評価後、学部等で検討）
		大変良い		良い		不十分		かなり不十分			
1	慣例的なことやこれまでのやり方にとらわれず、常に創造的な取組を行うように心がけている。	1	4%	22	79%	4	14%	1	4%	2.8	<p>「1 慣例的なことやこれまでのやり方にとらわれず、常に創造的な取組を行うように心がけている。」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最優先な内容などを見極めながら業務に取り組む。 ・SDGsを意識した授業改善を図る。 ・ICTを活用した交流活動も考えていく（GoogleMeet、Zoomなど）。 ・児童生徒の実態をしっかり把握し、取組内容を検討していく。
2	課題意識を持って仕事に取り組み、その解決を図っている。	5	18%	22	79%	1	4%	0	0%	3.1	
3	仕事の効率化を図りながら、日々の業務に取り組んでいる。	4	14%	22	79%	2	7%	0	0%	3.1	
4	困ったことや慣れない仕事などは、周りの人に相談しながら仕事を進めている。	5	18%	22	79%	1	4%	0	0%	3.1	
5	仕事と生活の調和（ワークライフバランス）の実現に向け努力している。	5	18%	18	64%	4	14%	1	4%	3.0	
6	今年度の学校経営グランドデザインに示す学校経営の柱や方向性をふまえ、目標達成に向けた取り組みを行ってきましたか。	3	11%	23	82%	2	7%	0	0%	3.0	
7	今年度の学校経営グランドデザインが目指す学校改革の内容を理解し、学校・学部・学級経営に努めましたか。	2	7%	23	82%	3	11%	0	0%	3.0	
8	今年度の学校経営グランドデザインが目指す地域貢献の内容を理解し、学校・学部・学級経営に努めましたか。	1	4%	23	82%	4	14%	0	0%	2.9	